

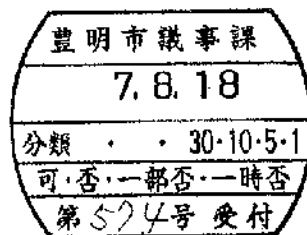
<参考>様式第2号

令和7年8月18日

豊明市議会議員 殿

行政等視察報告書

議員名 武谷 としお



令和7年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告します。

年 月 日	視察先	視察項目及び成果等
令和7年7月28日	東京都北区	「北区子どもの権利と幸せに関する条例」について 別添：報告書①、写真
令和7年7月29日	神奈川県藤沢市	「藤沢型政策検討会議」について 別添：報告書②、写真

(注) 別紙添付も可能とします。

(注) 本報告書は5年間公開します。

会派清和・未来クラブ・豊明市公明党行政視察報告書 ①

武谷 としお

視察日時：令和 7 年 7 月 28 日（月）

視察先：東京都北区 北区子どもの権利と幸せに関する条例について

【東京都北区の特色】荒川など 4 つの河川が流れ、北は荒川を隔てて埼玉県に接する。JR11 駅が所在し、都電荒川線や埼玉高速鉄道、東京メトロ南北線、都営三田線も通る。明治期に大蔵省貨幣寮が置かれ、製紙や化学などの工場が周囲に立地。戦後には工場跡地などに住宅団地が建設され、住宅都市の性格が強まった。JR 東日本の車両基地「東京新幹線車両センター」が所在。

【条例制定にあたって】

- ・東京都・国で子どもに関する条例や法律が制定
- ・多様な年齢・背景の子どもたちから意見を聴くことを重視
- ・「児童の権利に関する条例（子どもの権利条例）」国連で批准して 30 年の節目に制定施行
- ・子どもの意見を施策に反映する仕組みや、困難を抱える子どもへの支援、学校や地域での居場所づくり、多様性を尊重する学びの推進など、具体的な施策を展開
- ・条例名から PR まで子どもの想いを反映
- ・条例の「前文」に「子どもたちからのメッセージ」を採用
- ・北区こどもの権利条例の基本理念は 3 つ「子どもの最善の利益」「誰一人取り残さない」「社会全体で子どもを育む」

【所感】

条例づくりの段階から子どもを中心にとらえて進んでいるのがうかがえる。子どもの意見を求めるための会議を開催したり、出された意見を尊重するよう努めたり、会議の運営も参加する子どもの自主性と自発性を重要視している。また、「11 の大切な子どもの権利」として「遊ぶこと（小学生）」「ゆったりと安心できる場所で休めること（中学生）」など子供の目線に立って制定しているのも感じられる。また、制定だけで終わってではなく継続的に子どもが委員として入っている委員会も行われていることに、なかなか実行できることではないと感銘を受けた。今後、本市においてもますますの少子化が進むと思われるが、まずは今の子どもたちと市と保護者、地域の大人を交えて「幸せを実感でき安心して過ごせるまち」を一緒に作っていくことが、今の本市にとって重要課題であると改めて考えさせられる視察であった。

北 区 子 ど も の 権 利 と 幸 せ に 関 す る 条 例 に つ い て



会派清和・未来クラブ・豊明市公明党行政視察報告書 ②

武谷 としお

視察日時：令和 7 年 7 月 29 日（火）

視察先：神奈川県藤沢市 藤沢型政策検討会議について

藤沢型政策検討会議について（神奈川県藤沢市）

【藤沢市の特色】県中央南部に位置し、南は相模湾に面する。江戸時代は宿場町で、明治時代には江ノ島電鉄の開通により人気の保養・観光地として栄えた。戦後は、東京まで 50 分、横浜まで 20 分の距離から住宅都市として成長。江ノ島や海水浴場など観光地のイメージが高いが、製造品出荷額が国内上位の工業都市であり、慶應 SFC など複数の大学が所在する学園都市でもある。

【議員による政策提言について】

- ・議会の政策立案機能を強化し、条例の提案等により積極的な政策提言を行うことを実現するため、政策検討会議を設置。
- ・議会運営委員会に 3 人以上の議員から条例づくりの「政策検討項目」が提出され、議会運営委員会において承認が得られた場合は、政策検討会議を開催。
- ・政策検討会議は、市民の意見を聴取するためパブリックコメントを実施することができる
- ・政策提案等に係る取組の状況について、適切な時期にホームページ及び市議会だよりへの掲載を基本として、随時情報発信を行う。

【所感】

政治信条や考え方の違う個人事業主的な集団を取りまとめ、一つの条例が出来上がったことを大変評価する。議員は考え方が違って当然良いし、政治信条にのっとって行動するのは当たり前だが、こと「市民のため」「市の発展のため」は当然の共通認識である。議会の中で価値観の違いを理由に議論を終わらせることはあってはならず、最初から論点を排除するべきではなく、議論を重ねる中で相互の価値観の矛盾点、整合性の確認を行うことが優先されるべきである。そこには強いリーダーシップをとることができる議員が必要だと痛感した。藤沢市議会では定期的に議員研修を行っており議員の資質向上にも努めていた。本市においても費用面や講師の問題等あるが取り組むべきである。議員の提出議案で「ケアラー支援条例」ができていたが、その道筋の中で市の職員へのヒアリングや意見交換を行っていたことも特筆すべきことであった。議員は万能ではないのでその道の専門家職員に教えを乞うことも大変重要で、全庁あげて市民のために同じ方向を向いている姿勢が大事であることも考えさせられた。道筋は大変困難を極めるが豊明市議会として取り組むべき事例も多々ありとても勉強になった視察であった。

「藤沢型政策検討会議」について

